

青空の下で雪遊びを楽しむ児童ら



かまくら作り・雪玉投げ…

きんたろう倶楽部
体験型プログラム

児童が自然学ぶ

立山 体験型学習プログラム「わくわく富山たんけん隊」が25日、立山町の立山芦峠ふるさと交流館であり、児童7人が住民らと雪遊びを楽しみ、地元の自然や文化を学んだ。

NPO法人「きんたろう倶楽部」（鏡森定信理事長）が環境教育の一環で企画。県内の大学生が中心となって内容を考えた。

学生ボランティア4人、同NPOの5人に住民が協力。午前ほかまくら作りをしながら雪玉を投げたり、雪上に寝転んだりして遊んだ。午後は

立山カルデラ砂防博物館の飯田肇学芸課長を講師に迎え、雪の結晶を作る実験を行い、雪に理解を深めた。昼食は山菜を昆布だしで煮る「つぼ煮」、もち粉にヨモギを混ぜて焼いた「やきつけ」など芦峠寺の郷土料理を味わった。

北日本新聞 平成29年2月26日(日)